

## 剣崎長瀬西古墳(高崎市)

正面が剣崎長瀬西古墳/円墳または帆立貝式古墳とされる/葺石の葺かれた2段築成



近づいて見る/主体部は円礫を使用した竪穴系で、墳頂部と南側テラス部分の2箇所を確認されていると云う/5世紀後半の築造



説明板が立っている



## 剣崎長瀬西古墳 (けんざきながとろにしこふん)

墳形：円墳または帆立貝式古墳	遺物：振文鏡1・滑石製勾玉7・滑石製白玉多数・滑石製鏡形模造品1・滑石製斧頭4・滑石製鎌身3・滑石製刀子35、鉄製三角板革綴短甲1・鉄製銚身及び石突各1・鉄鏃・ガラス製小玉等（以上主体部より出土）
墳丘規模：墳丘葺石最下段で径約30m	須恵器（墳丘より出土）
周堀底葺石最下段で径約67m	
高さ現状で約5m	
周堀幅2.5～3m	
墳輪：円筒墳輪・家形墳輪	築造年代：5世紀後半代

この古墳は八幡台地の北端に造られています。この台地には、国指定史跡観音塚古墳（6世紀後半）や平塚古墳（5世紀後半）などの前方後円墳や、群集墳と呼ばれる数多くの中小古墳が造られています。古墳の南にある、現在の西部小学校敷地内からも、7世紀代の横穴式石室を持つ円墳が発見されています。また、古墳の東側の剣崎長瀬西遺跡では円墳・方墳・積石塚を含む5世紀代の群集墳と横穴式石室を持つ7世紀代の群集墳が計36基調査され、金製垂飾付耳飾・韓式系土器・初期馬具の他、墳輪・土師器・須恵器などが大量に出土しました。

**墳丘および外部施設** 墳丘は、周堀の底から葺石が葺かれており、墳丘側が高くなっているため、この部分を見かけの1段目とすることができ、2段築造を意識して設計された古墳であることがわかります。1段目のテラス外周には円筒墳輪が巡っていました。このテラス部分は、古墳の南側で広がっている様子が確認されており、墳形が円墳ではなく、帆立貝式古墳になる可能性も考えられます。

**墳輪** 周堀内から多数の円筒墳輪が発見されました。また、南側テラス部分では家形墳輪が1点すえられたままの状態で見つされていますが、他に形象墳輪は見つかっていません。

**主体部** 主体部は墳頂部と南側テラス部分の2か所に、竪穴系の埋葬施設が発見されています。

墳頂部の主体部は、そのほとんどがこぼされており、規模・形態共に不明です。テラス部分の主体部は、円礫で1m×1.5mの方形区画を造り、その中心に長さ約0.9mの竪穴式小石槨を築いている様子が明らかになりました。この構造は、剣崎長瀬西遺跡で発見された、渡来人の墓である積石塚と共通するものです。

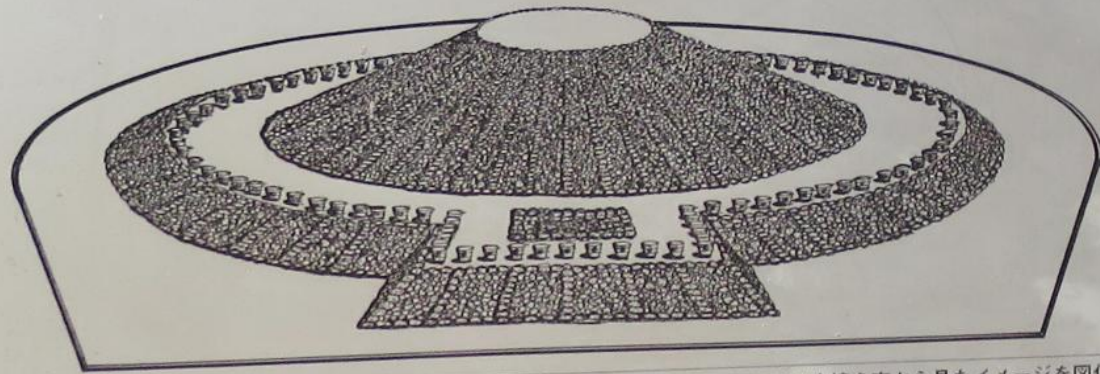
**副葬品** 昭和7年、墳頂部を開墾作業中、多数の副葬品が発見されたため、当時の帝室博物館（上野・東京国立博物館）に一括して納められました。遺物には振文鏡・滑石製勾玉・滑石製白玉・滑石製鏡形模造品・滑石製斧・滑石製鎌・滑石製刀子・鉄製三角板革綴短甲・鉄製銚身及び石突・他に鉄鏃等があります。また、平成10年度の調査では、墳丘のテラス部分から須恵器の甕が見つかっています。

剣崎長瀬西古墳は八幡台地上で剣崎天神山古墳（円墳；現状削平）に次いで築造された円墳であり、その築造年代は5世紀前半代であると考えられていました。

しかし、平成10年度新たに発見された円筒墳輪がやや新しい型式であること。滑石製模造品がかなり省略化の進んだ型式であることなどを考慮すると、古墳築造の年代は5世紀後半代であると考えられます。

高崎市水道局  
高崎市教育委員会

剣崎長瀬西古墳 イメージ図



この図は古墳を南から見たイメージを図化したものです。



### 写真1 剣崎長瀬西古墳調査の様子

剣崎長瀬西古墳の発掘調査は、平成10年度に行われました。

調査の結果、いままでその存在が知られていなかった、葺石や埴輪や古墳の周囲に巡らされた堀（周堀）の存在が明らかになりました。



2

### 写真2・3 発見された葺石

葺石は、周堀の底から2段に葺かれており、1段目と2段目の間の平らな部分（テラス部分）には、円筒埴輪が通っていたと考えられています。



1



3

### 写真4 第二の主体部

剣崎長瀬西古墳の主体部（人が埋葬されていた部分）は、古墳の頂上（墳頂部）に1基と南側テラス部分に1基確認されています。

テラス部分の主体部は未盗掘であると推定され、外側の調査を行った後、そのまま保存されています。



4

### 写真5・6 円筒埴輪と家形埴輪

円筒埴輪のほとんどは破片として堀の中に落ち込んだ状態で発見されましたが、南テラスの部分では4本並んだままで残っていました。

円筒埴輪は2条の突帯を持ち、外面に縦方向のハケ目が施されています。周堀から発見された埴輪の中には、須恵器のように青く焼きしまったものもありました。

また、南側テラスからは、家形埴輪が1個体発見されています。この埴輪は外面に綾杉文が施されており、高崎情報団地I遺跡や伊勢崎市上植木本町出土のものとよく似ています。

5

6



写真7～13 剣崎長瀬西古墳出土遺物  
(東京国立博物館蔵)

これらの遺物は昭和7年、開墾の際に発見されたものであり、現在東京国立博物館に保管されています。

7は鉄製三角板革綴短甲で表面に黒漆を塗った痕跡があります。8は直径11.8cmの振文鏡と呼ばれる形式の鏡です。

9から13は軟質の石を削って作った滑石製模造品と呼ばれる遺物です。9は鏡を、10は鎌を、11は斧を、12は小さい刀(刀子)をそれぞれ模して作られています。また、13は扁平に作られた勾玉です。

南側から見る/こちら側のテラスが広がっており、墳形が帆立貝式古墳である可能性があると云う





西側から見たところ



二段築成の様子や周堀が巡っている様子が見て取れる



北西側から見たところ/背後は西部小学校



アップで見たところ/1段目のテラス外周には円筒埴輪が巡っていたと云う



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



北東側から見たところ



東側から見たところ





これはそこから振り返って東方向を見たところで、こちら側には剣崎長瀬西遺跡が展開していたらしい



左手を見たところ/剣崎長瀬西遺跡/円墳・方墳・積石塚(渡来系の墓)を含む五世紀代のの群集墳と横穴式石室を持つ7世紀代の群集墳が計36基が調査されていると云う/また、竪穴式住居が52軒確認され、そこから韓式系土器が出土したり、土坑から馬の遺体出土していて、これは「殺馬儀礼」という朝鮮半島由来の馬飼集團の習俗と考えられており、この地に渡来系集團がいた根拠になっているらしい



西部小学校敷地内では7世紀代の横穴式石室を持つ円墳6基が確認されていると云う



参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki\\_nagatoronisi/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_nagatoronisi/)

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121800693/>

<http://ktrmj15.webcrow.jp/p10gm/tpx14112413kenzaki.htm>

[https://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058z/31925921.html?\\_yvsp=5Ymi5bSO6ZW354Ce6KW%2F5Y%2Bk5aKz77vI6auY5bSO5biC77vJ](https://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058z/31925921.html?_yvsp=5Ymi5bSO6ZW354Ce6KW%2F5Y%2Bk5aKz77vI6auY5bSO5biC77vJ)

[https://blogs.yahoo.co.jp/tsiqu183/14112218.html?\\_yvsp=5Ymi5bSO6ZW354Ce6KW%2F5Y%2Bk5aKz77vI6auY5bSO5biC77vJ](https://blogs.yahoo.co.jp/tsiqu183/14112218.html?_yvsp=5Ymi5bSO6ZW354Ce6KW%2F5Y%2Bk5aKz77vI6auY5bSO5biC77vJ)

<http://tigerdream-no.blog.jp/archives/39052314.html>

<http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-2386.html>

<http://blog.goo.ne.jp/nekotokenchiku/e/6abbee50740f6079bb0c22a6bdc55479>

<http://transience.blog.so-net.ne.jp/2016-09-06>

